

『社会保障の不都合な真実』

鈴木亘著 — 日本経済新聞出版社 2010年



釜田 公良 (かまだ・きみよし)

中京大学経済学部教授。1963年生まれ。85年東北大学卒業、90年名古屋大学大学院単位取得満期退学。同大学経済学部助手、中京大学経済学部講師、助教授を経て2000年より現職。博士（経済学）。専門分野は公共経済学。ミクロおよびマクロの消費に対する年金の効果や遺産動機、内生的出産選択と世代間所得移転政策などを研究テーマとしている。主な著書は、『世代間所得移転政策と家族の行動』（勁草書房）など。

公的年金等の社会保障は、高齢者の生活の安定に寄与する反面、年老いた親に対する子の自発的な扶助を抑制し、親と子のつながりを希薄にするという通念がある。わが国においても、社会保障が整備されてきた背後で親子の同居率は歴史的に低下している。公的年金が存在しなかった時代には、子は同居して親を養うか、あるいは、別居するなら生活費を仕送りする必要があった。同居の経済的メリット（家電品など家族で共用できるものは1つで済む、5人分の食費は1人分の5倍かかるわけではない等）を考えれば、同居は子にとって合理的な選択であったと言える。公的年金の導入は、保険料という形で子に仕送りと同様の金銭的負担を強制し、子はより高い所得が得られる居住地を選択するようになった。社会保障は世代間扶養の主体を家族から社会に移すものであるが、親にとってこれらが金銭面では代替的であったとしても、家族のつながりという面では決してそうではない。子との付き合い方に関して淡泊な高齢者が増えていると言われるが、いまでも80%弱の高齢者が子との同居や頻繁な接触を望んでいる（内閣府『平成22年版高齢社会白書』）。

しかし、社会保障が家族関係をいかに変容させたかということ以上に、現実問題として重要であるのは、いまの家族関係を前提として高齢者（および、いつかは高齢者となるすべての人々）が安心して生活できる社会保障制度を構築することである。本書は、経済学の立場からの客観的分析、現状に関する豊富な情報と知識、そして何より著者の良識によって、年金、介護、子育て等の社会保障の実態がその目標からいかにかけ離れているかを、説得力を持って明らかにする。「少子化対策によって子どもが増えれば、社会保障財政は良くなる」「介護労働力不足は資格高度化によって解消される」といったしばしば語られる楽観論は全面的に否定される。そして、詳述される「介護難民」や保育所の待機児童等の問題の根深さと深刻さには憤りと絶望感を覚えさせられる。しかしそれは誰もが知っておくべき「真実」なのである。

ただし、本書は悲観論に終始している書物ではない。本来の目標に向けて軌道修正するための当面実行可能な方策が提言されており、とくに「子ども手当のバウチャー化」(※1)「混合介護」(※2)等は早急に本格的な検討を進めるに値する。

CEL

(※1) 子育て支援商品やサービスなどに使い道を限定したバウチャー（金券）を子ども手当として現物給付すること。

(※2) 介護保険制度内での保険サービスと保険外の全額自己負担のサービスを使い分けて利用すること。

Books : editor's choice

- 『若者が「社会的弱者」に転落する』宮本みち子 洋泉社（2004年）
- 『若者と仕事—「学校経由の就職」を超えて』本田由紀 東京大学出版会（2005年）
- 『U35世代—僕と仕事のビミョーな関係』サントリー次世代研究所 日本経済新聞出版社（2005年）
- 『格差社会—何が問題なのか』橘木俊詔 岩波書店（2006年）
- 『脱「格差社会」への戦略』神野直彦、宮本太郎編 岩波書店（2006年）
- 『検証・若者の変貌—失われた10年の後に』浅野智彦 勁草書房（2006年）
- 『軋む社会—教育・仕事・若者の現在』本田由紀編 双風舎（2008年）
- 『格差社会を生きる—男と女の新ジェンダー論』杉井静子 かもがわ出版（2008年）
- 『論争 若者論』文春新書編集部 文春新書（2008年）
- 『世代間連帯』上野千鶴子、辻元清美 岩波書店（2009年）
- 『日本の雇用—ほんとうは何が問題なのか』大久保幸夫 講談社現代新書（2009年）
- 『格差社会という不幸』神保哲生、宮台真司、山田昌弘他 春秋社（2009年）
- 『ワーキングプア—日本を蝕む病』NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班 ポプラ文庫（2010年）
- 『「分かち合い」の経済学』神野直彦 岩波新書（2010年）
- 『生き方の不平等—お互いさまの社会に向けて』白波瀬佐和子 岩波新書（2010年）
- 『ひきこもりから見た未来』斎藤環 毎日新聞社（2010年）
- 『くらべない幸せ—「誰か」に振り回されない生き方』香山リカ 大和書房（2010年）
- 『世代間格差ってなんだ—若者はなぜ損をするのか?』城繁幸、小黒一正、高橋亮平 PHP研究所（2010年）
- 『未来思考—10年先を読む「統計力」』神永正博 朝日新聞出版（2010年）
- 『社会力を育てる—新しい「学び」の構想』門脇厚司 岩波新書（2010年）